令和元年度市長のまちづくりふれあいトーク議事録（十二町地区）

日時　令和元年8月23日（金）　19:00～20:30
場所　十三谷農業研修館
出席者　十二町地区住民　38名
　市長、企画政策部長、総務部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、
　消防長、防災危機管理監、子育て支援課長（市民部長代理）、事務局7名
内容　19：00～19：05　市長あいさつ
　19：05～19：37　市政の概要について　市長説明
　19：38～19：41　地区の事業概要について　事務局説明
　19：42～20：23　意見交換
　20：23～20：30　閉会あいさつ

	質問の内容	回答
1	＜交流人口の拡大について＞ 下十二町地区　男性 　少子高齢化は全国の市町村共通の課題であり、他市町村と同じ取り組みをしても人口増は難しい。 　市では交流人口の拡大を掲げているが、（何年か前の）教育長がスポーツの全国大会やイベントの誘致を積極的に行っていた。同じように、今の市職員にも積極的に誘致を行ってほしい。全国大会やイベントを開催することで、それを目的に氷見市を訪れる人達が買い物し、宿泊することで、氷見市の経済が活性化する。 　市では移住者を募集しているが、効果は限定的だと思う。それよりも全国大会やイベントを通じて交流人口を拡大させる方が効果的であると思う。	企画政策部長 　交流人口の拡大に向けた取り組みについては、代表的なものとして、毎年３月に開催される「春の全国中学生ハンドボール選手権大会（以下春中ハンド）」がある。ハンドボールの聖地として全国から選手・父兄等、多くの方々に氷見市に来ていただき、地域の皆様には各県代表チームの応援サポーターとして協力いただいている。 　今年は、富山で「世界で最も美しい湾クラブ」の総会が開催される。氷見市は県内でも有数の海岸線を有している。こういった機会を活用しながら、氷見市の魅力をアピールし、交流人口の拡大に繋げていきたい。またスポーツ、観光に限らず、交流人口を拡大させるための更なる努力をしていきたい。 　国のモデル事業ではあるが、国が進めている関係人口の創出に向けた取り組みとして、８月に浅野総一郎氏ゆかりの横浜市の中学生を招いた「スタディツアー」を開催した。８名の中学生の参加があり、参加いただいた中学生には、氷見市を第二の故郷にしてもらいたいと考えている。 　今後も交流人口の拡大に向け、様々な施策に取り組んでいきたい。
2		産業振興部長 　イベントに合せた交流人口の拡大については、昨年、台湾を視察した際に、台湾高雄市の議員に「富山を訪れる際には、氷見市に宿泊していただきたい。」とお願いしたところ、９月末に富山市で開催される「日台議員サミット」に合せ、台湾高雄市の議員とそのご家族、約20名が氷見市内に宿泊していただけることになった。今回のケースは少数ではあるが、今後もイベントに合せた観光等の誘致を継続していきたい。
3		市長 　交流人口については、昨年、当市で開催される春中ハンドを5年延長し、2025年まで開催する事を決定した。春中ハンドは全国から約1万人以上の方が当市を訪れ、合せて宿泊もしていただけるため、非常に経済効果が大きなイベントである。今年は富山県内で「世界で最も美しい湾クラブの総会」や「日台議員サミット」といった全国規模、世界規模の大会が開催されるため、一部の関係者には、その機会に当市へ来てもらうようお願いしている。 　関係人口については、横浜市の中学生に参加いただいた「スタディツアー」、市内で１～２週間働きながら、当市を知ってもらう「ふるさとワーキングホリデー」、埼玉県大宮市と共同で開催した「全国おかみさんサミット」を実施している。自分も含め、職員一丸となって、交流人口、関係人口の拡大に繋がる誘致に努めていきたい。

	質問の内容	回答
4	＜鳥獣被害対策について＞ 同男性 　市内ではイノシシ等による農作物被害が発生しており、他市町村では人的被害も発生している。しかし市職員を含め、農業に従事していない人は他人事である。 市単独で鳥獣被害に対応するのは難しいかもしれないが、鳥獣被害を自分事として捉え、国や県に働きかけてもらいたい。	産業振興部長 　鳥獣被害対策については、国・県に様々な要望をしている。 　当市では、鳥獣害対策のうちイノシシ対策として、ワイヤーメッシュによる防護柵の設置について補助制度がある。山と集落の間に柵を設置することで、イノシシの侵入を防ぐことができる。また餌となる放任果樹の伐採、山と集落間の緩衝地帯となる場所の刈払いなどに利用いただける補助もあるので活用いただきたい。
5		市長 　イノシシ対策については、7月に呉西6市で構成する「とやま呉西圏域連携中枢都市圏」で、県知事へ要望を行った際の、大きな項目の一つとして、鳥獣被害対策を要望している。特に当市では、昨年、県内で捕獲されたイノシシ約6000頭のうち、約2800頭が市内で捕獲されている。 　イノシシについては、駆除をしていかいないと頭数は減らないが、まずはワイヤーメッシュ柵や刈り払いについての市の補助制度を活用いただきたい。また、イノシシ捕獲に対する市の補助制度についても、これまでは4～11月の期間に捕獲されたイノシシにのみ補助を行なっていたが、今後は、冬期の狩猟期間中の捕獲についても補助を行なう予定である。一頭でも多く駆除していきたいので、ご協力いただきたい。 　なお、県内で確認されている豚コレラについては、市内に1か所ある養豚場に確認したところ、イノシシの侵入を防ぐため、金網、ネット、電気柵が敷設され、万全の体制と聞いている。ただし出入りするトラック等から感染を防ぐため、今後はタイヤを洗浄する場所を整え、より万全の体制を整えていきたい。
6	＜中心市街地の歩行者数の増加について＞ 男性 　配布資料の12ページに記載されている「まちなか活性化事業費」について、市ではまちづくりファンドを設立し、空き店舗への新規出店者を誘致し、歩行者数の増加を目指しているが、現在、中心市街地の人の流れは主としてバスによるものであり、観光バス等の駐車場が必要である。 　例えば既存のふれあいスポーツセンターの第二駐車場を観光バスの駐車場として活用してはどうか。中心市街地から少し離れた場所を駐車場にすることで、そこを起点に街中を回遊してもられば、費用を掛けずに、歩行者数の増加に繋がるのではないか。	産業振興部長 　ふれあいスポーツセンターの第二駐車場から中心市街地までは距離があり、観光客に対し徒歩による回遊を促すことは難しい。現在、中心市街地には、観光バスを数台駐車できる旧市役所跡地の駐車場がある。
7	同男性（産業振興部長の発言を受けて） 　観光客には中心市街地で降りてもらい、その後、観光バスには、ふれあいスポーツセンターの第二駐車場に駐車してもらってはどうか。	産業振興部長 　現在、旅行会社等から中心市街地観光の問い合わせがあった際には、中の橋等の中心市街地で観光客には降車してもらい徒歩で観光してもらうようお願いしている。その間、観光バスには漁港の駐車場で待機してもらっている。 　提案いただいた「ふれあいスポーツセンターの第二駐車場」は大型の観光バスを多数駐車できる利点があるので、利活用については今後考えていきたい。

	質問の内容	回答
8	＜多言語翻訳機について＞ 同男性 市が導入した多言語翻訳機は74言語に対応しているが、市内を訪れる外国人観光客は、台湾、中国、韓国、英語圏、フランス語圏の方がほとんどである。74言語という多くの言語に対応した翻訳機は高額だと思うので、氷見市では、そこまでの言語に対応する翻訳機は必要はないと思う。	産業振興部長 当市では多言語翻訳機を試験的に3台導入している。多言語翻訳機は最初から数十種類の言語に対応しているものが主であり、購入額については1台3～4万円程度である。 現在、ひみ番屋街、氷見市観光協会、外国人旅行客が宿泊される民宿等に試験的に貸し出している。その上で各事業所が、多言語翻訳機を導入する際には2分の1を補助する仕組みを進めている。
9		市長 当市を訪れる外国人旅行客の中で、一番多いのは台湾の方である。そのため当市では5月から台湾の方を1名雇用し、台湾語と英語の通訳をしてもらっている。
10	＜氷見市民病院の経営について＞ 同男性 氷見市民病院は、医師の減少によって患者数が減少し、赤字経営が続いている。持続可能な病院経営について、その対策を教えてほしい。	市長 氷見市民病院（以下市民病院）については、平成20年度に指定管理制度になって以降、10年間の経営状態は、概ね3期黒字、7期赤字であり、ここ最近は3期連続赤字となっている。昨年度の赤字金額は約1億2千万円であった。 赤字の原因の一つとしては、市民病院を経営している金沢医科大学に毎年分割で、病院建設費の2分の1を負担してもらっている。これが大きな経営負担になっている。 金沢医科大学とは20年間の指定管理契約を結んでいるが、このまま赤字経営が続くようでは、期間終了後に、契約を継続してくれない可能性が高く、市民病院の存続に関わると懸念している。そのためには、市民病院を黒字経営に改善しなくてならない。大きな負担となっている病院建設費の2分の1負担や金沢医科大学が負担している医師等の住宅費について、市ができる範囲で支援する等、テコ入れが必要だと思っている。現在、市と金沢医科大学が支援に関する協議を行なっており、議会にも諮りながら金沢医科大学の経営を支援し、市民病院を黒字経営に改善したい。 市民の皆さんには、赤字経営が3期続き、ご心配をおかけしている。市としては経営を支援する一方、金沢医科大学にも経営努力も求めていきたい。
11	＜小学校、保育園の統合について＞ 上久津呂地区　男性 十二町小学校も少子化で児童が減っている、児童数が何人以下になると、学校を統合しなくてはならないという決まりはあるのか。十二町保育園については、20名以下になると廃園になると聞いたが、実際はどうなのか教えてほしい。	教育次長 小学校の統合については「児童数が一定数を下回ると統合が必要」といったような決まりはない。これまで市内の小中学校を統合する際には、統合審議会という会義で統合を諮り、その中で決定した計画に基づいて統合を進めている。 今後、市内で児童数の減少等によって小中学校の統合が必要な場合は、統合審議会で実情を見ながら決めていくことになる。
12		子育て支援課長 十二町保育園については、昨年7～10月にかけて今後のあり方について地域の皆さんで話し合っていただいた。その際も説明しているが、当市では、園児数が20名を割り込んだ保育園がある場合、統合について一度、地域の皆さんに説明するようにしている。 現在、十二町保育園は園児数が22名のため、今のところ統合の話はないが、園児数が20名を割り込むことがあれば、再び地域の皆様に、市から保育園の統合について説明させていただく。ただし、説明後すぐに統合になるのではなく、あくまでも地域の皆さんの要望を聞いた上で進めていくことになる。

	質問の内容	回答
13	＜十二町潟の将来について＞ 下十二町地区　男性 現在、十二町潟に接続する万尾川の上流と下流にある水門を二門とも閉じることで、上十二町地区の一部と下十二町地区の水稲200反分の農業用水を十二町潟から確保している。その影響から十二町潟の水量は半分以下、水深も年々浅くなっており、農業用水を確保するにも以前より工夫が必要になってきている。また、最近では短時間降水量が多いと、十二町潟の水深が浅くなった影響からか、上十二町地区の住宅の一部で床下浸水が起こる。そのため、その都度十二町潟と万尾川の水門を開けなければならない。十二町潟を灌漑用水として利用することで水深が浅くなり、十二町潟の雨水貯水機能が失われつつある。 昨年は、大伴家持生誕1300年記念としてHIMI万葉festivalが十二町潟水郷公園で大々的に開催された。十二町潟は歴史的価値も高いと思う。すでに十二町潟にはイタセンパラはいないと思うが、潟の生態系として自然環境としての価値もあると思う。 しかし、このままいくと10年後には十二町潟は潟の形態が保てないと思う。農業、自然、歴史等の多面的な価値を考えると、このまま十二町潟が失われてしまっても良いのかと考えてしまう。住民や地域では解決できない課題であり、市として十二町潟の将来についてビジョンを考えていただけないか。 現在、市では十二町潟の浚渫をしていただいているが、その目的は、住宅の床下浸水を防ぐための浚渫であり、十二町潟を保全するためのものではない。工事内容も小規模で床下浸水を防ぐ効果も薄いと思っている。 テーマが広範囲に及ぶため、市からの回答は不要である。	（回答不要）
14	＜万尾地内の忠魂碑について＞ 男性 万尾地内（十二町小学校の裏）に忠魂碑があるが、忠魂碑にヒビが入っており倒壊の恐れがあるため何とかしてほしい。市のどこの部署で管理しているのか教えてほしい。	教育次長 確認の上、後日区長を通じて回答させていただきたい。
15	＜とくし丸について＞ 下久津呂地区　男性 とくし丸（移動スーパー）の現状について教えてほしい。	地域振興課より後日回答 とくし丸が地区に入る際は、NPOバスや地元の商店に配慮しながら、とくし丸の担当者が事前に自治会長に確認を行っている。 現在、十二町地区では、上久津呂、下久津呂等の一部の地区で、とくし丸が運行されており、その運転者が十二町地区の住民でもあることから、丁寧に回っていると聞いている。 運行する中で、商品がなくなった場合は、店舗に一度帰り、商品を補充するよう努めているが、順番が後になる地区からは「商品が少ない場合がある。」という声を聞いている。